

将来像の検討について

1 第6回作業部会において、必ず議論していただきたい事項

- (1) 将来像に盛り込むべき視点
- (2) 望ましい将来人口の水準をどのように考えるか
- (3) めざすべき将来像をどのように示すか
(例：キャッチコピーが必要か、等)

※第3次総合計画のキャッチコピー：「人が輝き、感動あふれる美しい都市(まち) すいた」

2 将来像に関する主な意見（「基本構想(素案) 検討用 意見シート」から抜粋）

(1) 方向性について

- ・市民が愛着を持つ町→住み続けたいと思う市民の割合（H18年度：64.3%）の進捗管理が無い中で、漠然的ではないか、全国的、府内、北摂でどの程度なのか、目標設定はできるのか【税務部】
- ・市内外への魅力発信
東京圏からの転入者割合の多さを「住みたいまち」の根拠にできるのか
(基礎データ集(案) 図表 35,36 から東京圏からの転入者 3,641 人に対して同圏への転出は 4,152 人と転出超過。)【税務部】
- ・都市インフラ中心に記載されるように感じるので、市民生活面での安心・安全などの切り口も必要ではないか？【市民部】
- ・「住みたいまち」とあるが、「暮らしたいまち」を目指す方向が良いのでは。
「暮らしたいまち」というのは仕事や日常生活等が充実しているまちということであり、暮らすという言葉の方が生活と密着している表現ではないか。【市民部】
- ・吹田市文化会館メイシアターや市立吹田サッカースタジアムを拠点とし、文化・スポーツを身近に感じ楽しむことができる環境づくりを行い、まちの魅力として広く発信します。【都市魅力部】
- ・交通利便性を活かした商業・業務複合都市をめざすのではなく、少子高齢化対策を考えるのであれば、住宅都市としての魅力ある発展をメインに考えていくべきである。
鉄道の利便性はよいが、バスの利便性はよくないことが、高齢者等に不便となっていることを念頭に計画されたい。【児童部】
- ・社会モデルとしての障害の理解と啓発 「福祉・医療先進都市」
従来の医療モデル・個人モデルから社会モデルの考え方へ転換を図り、すべての人が安全・快適に暮らすことができる社会基盤の整備を進めて、福祉と医療の先進都市をめざしたい。【福祉部】
- ・吹田市内には他市と比較しても多くの大学が集まっており、吹田市の特色の一つである。この特色を生かす取り組みをもっと強調してはどうか。(例えば、産官学連携等)【福祉部】
- ・人口が増えているからこそ、メリットだけでなくデメリットもうまれると思うので、市民が安心して長い間暮らしていくことができるまちを再確認する必要がある。【福祉部】
- ・転入者だけでなく、長らく吹田市に住む人にとっても住み続けたいと思われるまちを目指す。

【福祉部】

- 東京圏からの転入者の比率が府内で高いことが例としてあがっているが、その理由や転入者がそのまま定住しているかも分析した上で、将来像や方向性を考えていきたい。【福祉部】
- 目標なのか、予想なのか不明。目標であれば、大綱を実施、実現していくことで達成するものとするべき。【福祉部】
- 近隣市と比べて本市の魅力を整理する。（健康・医療・福祉の分野においても）【福祉部】
- 基本構想のP6に、吹田市の概要の1つとして昼夜の人口流入、流出がほぼ同じということが挙げられている。また、P11には市内の事業所及び従業者数のデータがあり、事業所の業種、所在地も分かっているならば、過去のデータや地価の予測、近隣市の動向と組み合わせることで今後の事業所進出について予想できると思う。（増加するのか、減少するのか）
事業所は何を求めて吹田で事業をしているのか、吹田市としての就労・雇用政策は、昼間の人口流出をメインとすべきなのか、地域振興面では事業所誘致を積極的に行った方がいいのか、既存事業所のでこ入れを強化すべきなのか。それらの需要と供給のマッチングが上手いけば、吹田市に住んで吹田市で働くという形も見えてきたりするかもしれない。このあたりのまちづくりの将来像や方向性がぼやけているように感じた。【福祉部】
- 本市の将来像を検討するうえで、平成28年度以降の本市の将来人口の推計（地域別も含む）や歳入歳出を推計し示す必要があると考える。
次に、その推計を踏まえどのようにあるべきかの基本的な将来像や方向性を示す必要があると思う。（そこから例えば「高齢化が続く（歳出の増）・労働人口が減少する（歳入の増）・少子化問題（歳出の増）」等の課題が見えて、計画期間（10年間）にどのようにあるべきか検討できるのではないか。）【健康医療部】
- 住民の福祉を支える持続可能性が損なわれることのないよう、全ての施策は現在だけでなく将来に影響を与えうるものであることを認識し、現世代の住民の福祉の増進を図るとともに将来世代の住民の福祉に責任を持つ「フューチャー・デザイン」の考え方を市の意思決定に取り入れ、基本姿勢とすることを提案します。（※詳細は意見シート参照）【環境部】
- 本市では近年人口の増加傾向にあります。将来的には全国的な傾向と同様、人口の減少、高齢者人口の増加が予想されます。
新たに本市に住まわれる方よりも、今、本市に住んでいる市民の満足度上昇を優先させる視点が重要であると思います。市民が愛着を持つまちとして、限りある自然環境の保全を加えることを提案します。【環境部】
- これまでの下水道部の取組から、「安心して住める町」を加えた内容にしてもらいたいです。【下水道部】
- 福祉と医療を大切に、高齢者・障がい者・子どもにやさしいまち吹田【会計室】
- 教育・文化・スポーツに活発で魅力あるまち吹田【会計室】
- とともに支え合う安心安全で環境先進のまち吹田【会計室】
- すべての世代が充実して暮らせる愛着の持てるまち吹田【会計室】
- 「安心して安全に住み続けられるまち」が、やはり、まちづくりに必要な基本的な要件の一つであり、それが持続され始めてその上に「市民が愛着を持つまち」などが成り立つと思われる。当該要件は施策の大綱にも位置付けられてはいるものの、市の将来像に必要な基礎・土台として表現していく必要があるのではないかと考える。【消防本部】

- ・シティプライドを構築する【水道部】
- ・究極のベッタウン化を目指す。住みやすい町ランキング 1 位獲得へ【水道部】
- ・ファミリー層拡大のためにも、待機児童対策を！「子育てするなら吹田」の復活をめざそう！
- ・安心・安全な街【水道部】
- ・ニュータウンは緑が多く道路も広く住みやすい。そんな街並を残してほしい【水道部】
- ・縦割り行政からの脱却【水道部】
- ・市民が市外へ流出することも危惧されることから、行政サービスの充実等にも言及しておく必要がある。【地域教育部】

(2) 将来像の示し方について

- ・本市への将来像と行政のかかわりについて、ある程度示していくことが必要ではないか。特に将来像にむけて官が取り組むべきこと、民に取り組んでもらうこと、市民に取り組んでもらうことなどを示していくことで、より具体的な方向性が示せるのではないか。【児童部】
- ・前回基本構想の将来像「人が輝き、感動あふれる美しい都市(まち)すいた」という表現は、若干、抽象的で美辞麗句が過ぎた印象を受ける。市の将来像として高い目標や理想を掲げることは重要であるが、平凡な表現であっても「暮らしやすく、住み続けたいまち」というような、イメージを具体的に共有しやすい将来像が良いのではないか。【福祉部】
- ・基本構想に目玉になるようなことをわかりやすいキャッチコピーが必要（※詳細は意見シート参照）【水道部】

(3) 将来人口について

- ・人口増加は必ずしも良いことばかりではないので、望ましい将来人口をどの水準に設定するかが非常に重要です。どのような人口構成を目指すかを含めて十分な検討が必要です。【総務部】
- ・P9の【本市の動向】において、今後の施策の方向性を判断するうえで、人口の動向はこれまで以上に重要なファクターとなっているため、より精緻な分析が必要と考える。【行政経営部】
- ・平成39年度の人口想定は、都市開発の状況を越えて、本市の主導的な目標設定とする場合の具体的な取組はできるのか、年齢階層区分、地域目標の考えはあるのか【税務部】
- ・人口推計が全庁的に使えるように、市としての地域別・年代別の推計を持つべきではないか。【児童部】
- ・人口推計については、市としての統一的な推計を取り、各大綱で使用できるような詳細の情報（就学前児童数や年齢別・男女別の就労状況など）を提示してほしい。【児童部】
- ・将来人口をみる中で、どのような世帯層（どんなニーズをもっているか）が入ってくるのかを分析することも必要ではないか。【児童部】
- ・計画の中心となるべきなのはやはり人口予想だと思う。基本構想のP11に、年齢区分別人口の推移があるが、人口は爆発的に増加している。恐らく人口における65歳以上の方の割合はあと数年は鈍化するかもしれないが、これ以上の開発が不可能な状況で高齢化社会が進めば、再び増加傾向となることは予想される。若年層の人口増加は将来に向けては喜ばしいことかもしれないが、待機児童問題という新たな課題をも生み出している。人口予想をなるべく正確に行うことが重要である。【福祉部】
- ・Ⅳ. 人口と都市空間 1. 人口 (P.19)

少子高齢化に関する「急務」の記述の中で、少子化には触れているが、高齢化に触れている記述がないので、健康寿命延伸への取組や、持続可能な介護保険制度の確立などの課題認識に関する記述を加えてはどうか。【福祉部】

- 人口（p20）「図表Ⅳ－2 将来人口の推計方法考え方（案）」に関する質問と意見
「開発等を見込んだ推計人口」には、今後策定を予定している「吹田市立地適正化計画」との整合を考えているのか？立地適正化計画において、人口の抑制や誘導を検討しているのであれば、互いの計画と整合を図ることが必要ではないか？【土木部】
- 将来人口は、それぞれの所管が公共サービスを検討する上で、基礎となる指標である。それぞれの所管が公共サービスを検討するためには、現時点で示されている全市の将来人口に加えて、バックデータとしての地域別の将来人口及び年齢構成の分析が必要ではないのか？【土木部】
- 人口動態を見据えた将来像【水道部】
- 今後の人口減少の中で吹田市として人口増を目指すのかどうかなどについて考える必要がある。【水道部】
- 人口減少対策だけでなく、人口構成の適正化も考えるべき【水道部】
- 人口目標は計画に盛り込むべき【水道部】

(4) 都市空間の将来像について

- P21 の2(2)都市間・拠点市街地間のネットワークの形成について
 - ア 具体的な事業が明確ではない。
 - イ 列記されている地域が限定的なのは何故か。
 - ウ 自治体で閉じた業務だけではなく自治体間の繋がりも重要ではないか。広域で行政サービスを提供できるようになる。
 - エ 近年の都市化に加え、更なるネットワーク拡大化を目指しているように感じるが、これからも同じ方向性でよいのか。地域に根差したことも重要ではないか。【行政経営部】
- 本市を取り巻く、第二名神のバイパス開通（平成 29 年度）、大阪モノレール、北急の延伸での人・物流・の変化、北陸新幹線の大阪延伸に触れなくてもよいのか【税務部】
- 例えば、自治会やコミュニティ施設等のことを記載しても良いのでは。【市民部】
- P19の人口と都市空間がこの部分にある意味は？【福祉部】

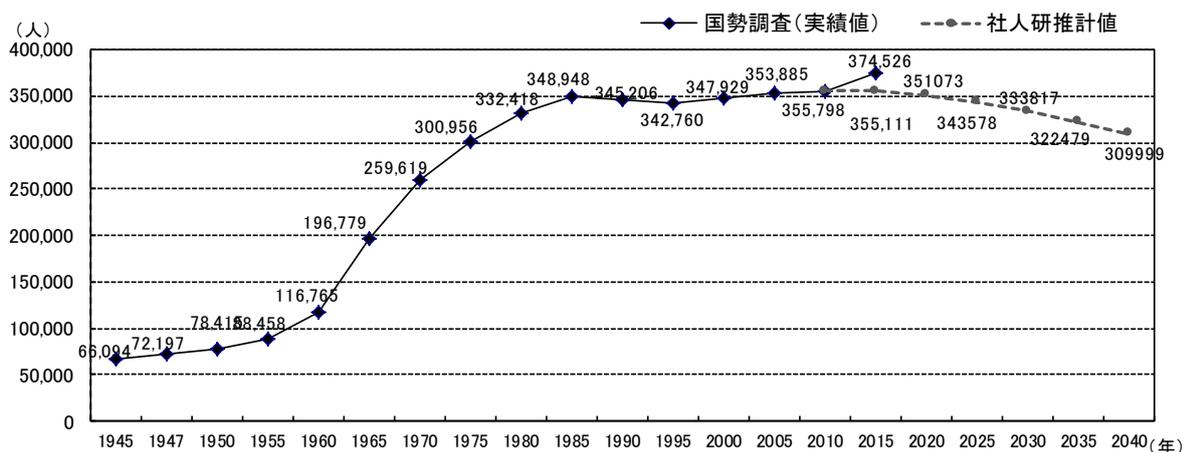
3 将来人口推計について

第4次総合計画における将来人口推計については、現在作業中（～9月中旬）です。

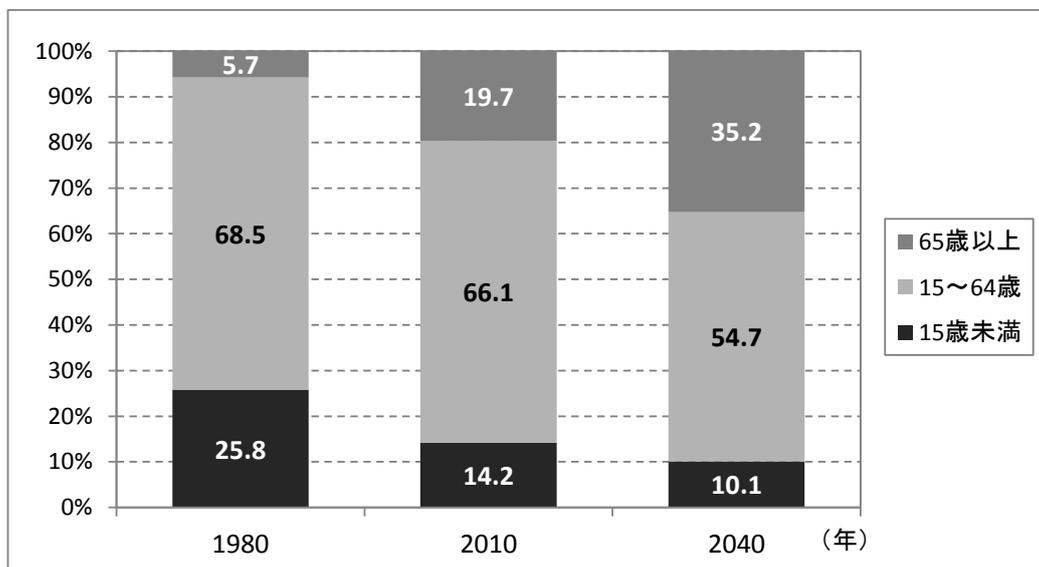
【以下、参考】

(1) 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による本市将来人口の推計

ア 総人口（※2010年までは実績値、2015年以降は推計値）



イ 年齢3区分別人口



(資料) 総務省「国勢調査」及び社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年)」より作成

4 将来像、施策の大綱及びまちづくりの基本姿勢の位置付けについて（イメージ図）

